



やまなし

第 87 号 2014 年 11 月 26 日 (年 3 回発行)

もくじ

- 1p タイの作業療法
- 3p 第 1 回山梨県リハビリテーション専門職合同学会のご案内
- 5p いきいき山梨ねんりんピック 2014 を終えて
- 7p 施設紹介
- 9p 理事会だより
- 11p 各種申請書変更のお知らせ・広告・編集後記

チェンマイ周辺の医療・介護・リハビリテーション

JICA シニア・ボランティア 渡辺 邦夫

みなさんこんにちは。タイのチェンマイ大学医療技術学部作業療法学科に赴任して 8 ヶ月が過ぎました。今回は、臨床実習を通して見たチェンマイ周辺の医療・介護・リハビリテーションの様子をお伝えします。

1. タイの医療と介護は？

タイの医療でいちばん驚くのは入院期間の短さです。都市部の大病院、地方の基幹病院では日本と同じような急性期医療が受けられます。しかし、脳血管障害や頭部外傷、脊髄損傷、骨折など、ある程度の期間リハビリテーションが必要な患者さんでも急性期の治療が終わると数日から 10 日くらいで大半が退院します。私が見た下腿骨折の患者さんは、抜糸もせずに創外固定器を付けたまま退院し、外来に通ってきます。

こうした背景には、いくつかの理由があります。まず、病床数と医療スタッフの数が少ないことです。医師数は人口比で日本の 5 分の 1 くらいだし、理学療法士や作業療法士の数は前号で紹介したとおりです。次に 30 バーツ (日本円で 100 円くらい) という低額で公的医療を受けられますが、プライマリ・ケアだけでリハビリテーションはその中に含まれません。

三つめは、家族の介護力がとても大きいことです。タイには「ガタンユー (恩返し)」と呼ばれる介護の文化があります。とくに地方では両親など高齢者が病気や障害になったら身近な家族が介護し、その家族を親戚や近隣の人がサポートします。退院後は高



写真 1: CVA 発症後 10 日の初老男性。皮質盲と体幹バランスの低下、病識の欠如が著明。その後急速に改善し ADL 自立。

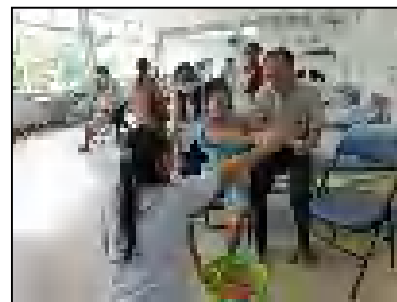


写真 2: 発症後 3 ヶ月の重度の左片マヒ、左半側無視の中年後期の女性。右視野を黒い紙で覆った眼鏡をかけて左視空間への注意を促すと左側のボールに手を伸ばす。

血圧症や糖尿病があれば地域の公立クリニックにお薬をもらいに通うくらいが普通です。

ごく限られた裕福な方は高額な医療費を払い、入院リハビリテーションや外来のリハビリテーションを受けることができます。たとえばチェンマイ大学のクリニックで外来リハビリテーションを受けると1回1時間300バーツ(日本円で1,000円くらい)になります。これはタイの1日の最低賃金と同額です。

2. 回復期のリハビリテーションどうするの？

では、一般の方の回復期のリハビリテーションはどのように行われているのでしょうか。チェンマイとその近郊では、地域の公立クリニックに隣接してリハビリテーション・センターが設置されています。こうした施設には看護師がいて健康チェックと運営を行っています。平行棒、四頭筋訓練器具、滑車、サンディング台、重錘バンド、ペグボードなどの器具があります。送迎サービスもあり、施設によって異なりますがタイ式マッサージ、手工芸などのボランティアが参加し、多彩な活動をしています。そして地域の基幹病院から週に半日くらい作業療法士や理学療法士が来て、新しい利用者の評価とプログラム作りに関わっています。ここに回復期から維持期まで数多くの方が通ってきて主に自主トレをしています。

チェンマイ大学作業療法学科では、こうした施設で年間約8ヶ月、身体障害系の臨床実習を行っています。このため個別プログラムの指導だけでなく、亜脱臼用のスリング、自助具の製作や修理、調理やゲームなどの集団活動が展開されています。

3. 地域にねざした回復期リハビリテーション

しかし、こうした施設は限られており、回復期のリハビリテーションをきちんと担う体制は発展途上だと感じています。また、タイでは日本よりも早いスピードで高齢化が進むと予想されています。

病床や医療専門職の数を一気に増やすことは難しいのですが、タイにはタイならではの社会資源があります。地方では家族介護の伝統が息づき、公立クリニックが普及しています。地域で活動する保健ボランティアの数も多く、少子化に伴って余ってきた幼稚園などがあります。こうした資源を活用し、地域にねざした回復期のリハビリテーション・システムを作っていくことが大切だと思っています。

皆さんも日本の良いところをもう一度見つめ直し、時には世界に目を向けて日々の作業療法に取り組んでくださいね。

(画像はチェンマイ周辺の地域リハビリテーション・センターの様子)



写真3：幼稚園の空き教室を利用して開始したセンター。壁には幼稚園時代の教材の絵。学生が左片マヒの70歳代の男性に上肢のポジショニングを指導。

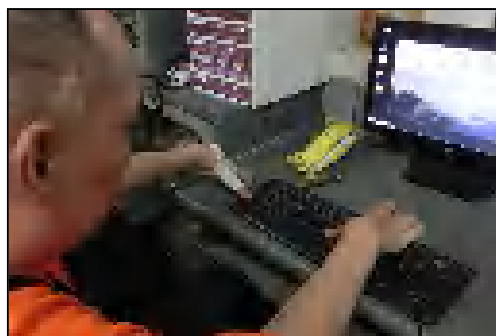


写真4：頭部外傷とC6の頸髄損傷の30歳代の男性。左手にサムポスト・スプリントを装着し両手でキーボードを打てるようになった。週5日4時間の就労で職場復帰。

「飛躍 ～やまなしのこれからのリハビリテーション～」
第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学会大会開催！

来たる、平成26年12月6日(土)7日(日)の2日間、山梨県理学療法士会・山梨県作業療法士会・山梨県言語聴覚士会主催による第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学会大会が、「飛躍 ～やまなしのこれからのリハビリテーション～」のテーマのもと開催されます。

<開催要項>

会期 平成26年12月6日(土) 13:00～18:20(受付12:00～)
平成26年12月7日(日) 9:10～15:20(受付8:30～)
会場 桃源文化会館
〒400-0222 山梨県南アルプス市飯野2971
TEL 055-284-3411

テーマ「飛躍～やまなしのこれからのリハビリテーション～」

プログラム 大会長講演・シンポジウム・教育講座・一般演題

対象 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・関連職種・学生・その他

主催 一般社団法人 山梨県理学療法士会
一般社団法人 山梨県作業療法士会
一般社団法人 山梨県言語聴覚士会

<大会開催に至るまでの経緯>

山梨県では、三士会の会長、副会長、事務局長の三役による意見交換会を年3回開催し、山梨県におけるリハビリテーションに関連する新たな合同事業への取り組みを進めてきました。合同災害対策や特別支援教育、訪問リハビリテーション推進など、全国のモデルケースとなるような活動を目指しています。

本学会大会もその一環として企画され、今年度から3年に1回の頻度で開催することとなりました。

リハビリテーション専門職である3職種合同による学会大会は、全国で初めての試みとなります。今大会長は山本伸一 OT 士会長が担い、今後は ST 士会、PT 士会の輪番制で運営にあたる予定となっています。

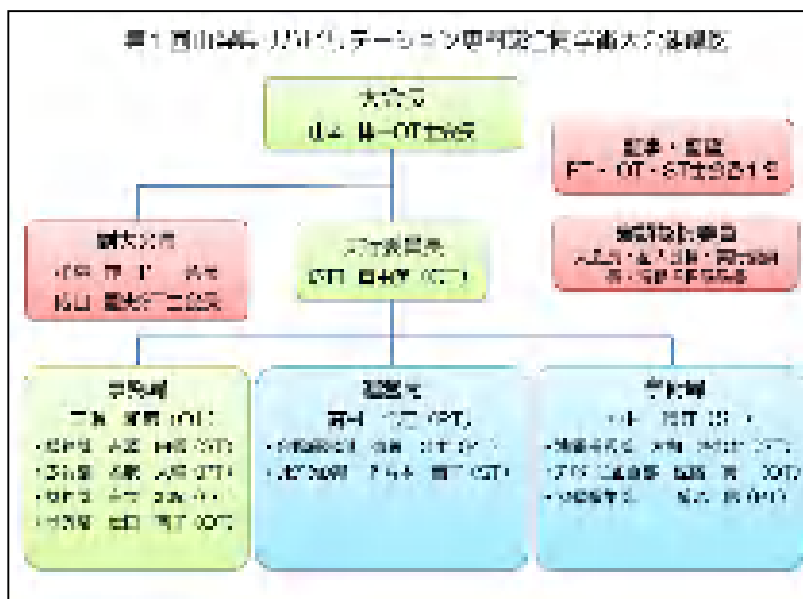
<大会ロゴマーク>



CYRSS

The 1st Congress of Yamanashi
Rehabilitation Specialists Society

世界遺産の富士山をモチーフに、山梨の特産品であるブドウと桃のカラーを取り入れました。また富士山の沢の部分が僅かに右肩上がりになっているのは、私たちの職域が広がっていくであろう未来を表しています。



<大会プログラムの見どころ>

大会長講演：テーマ「やまなしのこれからのリハビリテーション」

2025年の地域包括ケアシステムの構築を見据えた、今後の三士会の役割や専門職の臨床技術研鑽についての講演をいただきます。

シンポジウム：テーマ「これからのリハビリテーション」

公益社団法人日本理学療法士協会業務執行理事 植松光俊理事、一般社団法人日本作業療法士協会 中村春基会長、一般社団法人日本言語聴覚士協会 深浦順一会長の3氏よりご講演をいただいた後、「これからのリハビリテーション」について御討議いただきます。

教育講座

県内のPT、OT、STの第一線で活躍されているセラピストから、摂食嚥下障害 内部障害 認知症 高次脳機能障害 在宅リハビリテーション ロボティクスと多岐にわたるテーマについて講演をいただきます。

一般演題

PT、OT、STによる口述発表(50演題)は、OTの専門性を高めるとともに、PT、STの視点・考察を知るよい機会です。積極的な質問、討論を期待します。

レセプションが開催される予定となっています。リハビリテーション専門職として共同するPT、STの先生方と有意義な意見交換の場になればと思います。

<当日参加方法>

事前登録は11月7日に締め切られていますが、当日参加も可能です。当日に専用受付にて会員証を提示の上、受付をお願いします(会費は現金支払のみ4000円、弁当なし)

大会当日まで残り僅かとなりましたが、参加された先生方にとって思いで多き大会となるよう準備を進めています。皆様方のご参加をお待ちしております。

学術大会の詳細につきましては、第1回山梨県リハビリテーション専門職合同学術大会 HP (<http://yrsgg.com/>) をご覧ください。

いきいき山梨ねんりんピック2014を終えて ～こことからだのリハビリを伝える～

竜王リハビリテーション病院
中村彩

いきいき山梨ねんりんピックが9月27日に小瀬スポーツ公園で行われ、今年で第22回目を迎えました。ねんりんピックは、誰もが健康でいきいきとした生活が送れるよう、高齢者をはじめ大人から子供までの県民が一堂に会し、スポーツ・趣味・ボランティア・生きがいづくり活動等による仲間作りを通じて社会参加することで、同時に老後の暮らしを支える各種の情報を得るという目的で開催されています。

ねんりんピックにはシルバーライフ情報提供コーナー、福祉・保健に関する情報提供コーナー、生きがい情報広場、展示・即売コーナー、高齢者総合スポーツ大会、ふれあいスポーツフェアなど様々なイベントやコーナーがあります。その中で山梨県作業療法士会は福祉・保健情報コーナーにて、福祉や保健に関する各種の情報提供や作業療法のPRを行う目的で参加しました。今年は初めて3士会合同で行う事となり3ブース全てを体験してもらえるようにレイアウトの工夫やアナウンスでのPRを行いました。



今年も晴天に恵まれ200を超える方が作業療法(以下OT)ブースに立ち寄り下さり販買いを見せました。今年の当日委員は6名でねんりんピックでの活動が初めての委員が多く、最初は不安そうな様子でした。しかし、すぐにねんりんピックの明るく元気な雰囲気になれ、それぞれ役割を果たすことが出来ました。内容としては、昨年度同様に非利き手で箸を用いた大豆移し体験・箸の簡易自助具の作成、自助具紹介、プラバンキーホルダー作りを実施しました。

大豆移し・箸の簡易自助具作成に関しては「これ去年もやらせてもらったよ。今年も挑戦してみるよ」「そういうことをしなきゃいけない日が来るかもしれないから体験してみるよ」等の声が聞かれました。自助具紹介ではループタオルに興味を示す方が多く「肩の痛み」など誰にでも起こりやすく、少し困っているけれどそのままになってしまっていることなど自身の生活に結びつくものは聞いてもらい易かった様に感じます。キーホルダー作りでは絵の見本を用意したことで、絵を描くのが苦手な方でも取り組みやすい様に工夫をしました。また、見本の絵には色をつけず自分で色を考えてもらうことで個性を出せるようにしました。去年はビーズを用いたストラップ作りだったため男性は敬遠される方が多かったのですが、今年は自分でデザインを変える事が出来るため年齢・



性別関係なく体験して頂けました。空いている部分に日付や名前を書く方が多く「今日の記念になった」と喜んで帰られる方も多く見られました

今年は、作業療法を説明しようとする「まだ自分には必要ないかな」と、話を聞いてもらう事が難しい方もいました。OTを身近に感じてもらうためにも参加者の方の生活に近い体験を選んでいくことも大事だということが勉強になりました。また、家族の介護をされている方からお話を聞き、その中で自助具の紹介をすることが出来ました。「どうしていいのかわからなかったから教えてもらえて良かった」と喜んで帰られました。このようにねりんピックは誰もが参加しやすい場だからこそ雑談から相談に繋がりがやすく、緊張することなく話をしてもらえないかと思いました。また、作業療法が身体だけでなく心のケアにも繋がっているということを参加者の方に体感して頂けたと思います。

ねりんピックに来る方は元気な方が多く目に見える評価・検査を希望する声が多く聞かれます。そのため来年度の課題として、参加者のニーズにあった活動を取り入れてOTについて話を聞いて頂けるような工夫が必要であると思いました。また、ねりんピックに参加した方や地域の方々に作業療法が必要となった時に、作業療法を思い出してもらえる様な関わりをしていきたいと思いません。「もっとこういう相談に気軽に乘ってもらえる場が沢山あると嬉しい」「相談したいときにはどんな所に聞けばいいの」等、嬉しい意見や質問も多く聞かれ、地域の方に作業療法士が必要とされている現状を実感することが出来ました。その反面、まだ作業療法を知らない方も多いということを感じました。このような場に出て実際の地域の方と交流していくことで作業療法士の活躍の場が増えていくのではないかと思います。これからも県内地域の方々に作業療法をもっと身近に感じて頂き、今以上に気軽に相談して頂けるような存在となれるよう、作業療法の魅力について伝えていきたいと感じています。皆様ぜひ来年度は病院・施設から外に出て一緒に活動してみませんか？来ていただいた方もスタッフも笑い声や笑顔溢れるOTブースで、今年もとても楽しい一日でした。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。



施設紹介

医療法人久晴会 甲斐リハビリテーションクリニック
向山 琢磨・西平 健大

私が勤務する「甲斐リハビリテーションクリニック」は平成26年9月に甲斐市西八幡に開院しました。スタッフは医師1名・看護師4名・事務5名・放射線技師1名・理学療法士3名・作業療法士3名・介護福祉士2名・介護士2名が在籍しています。

医療法人久晴会は、「共生(ともいき)」実践業であることを事業理念として、患者様利用者様の人生に寄り添い、誰一人孤独にしない安寧の世を創ることを目指し、日々業務に取り組んでいます。ご自宅で障害を持った方々が安心して生活を過ごせることを支援出来る専門職集団であるとともに、共に患者様利用者様に寄り添った医療を提供できるようにスタッフ一同日々努めています。

『リハビリテーション部』

ベテランから若手まで年齢層は広いですが、和気あいあいと明るい職場になっています。私達は、患者様利用者様との一期一会を大切に毎日の業務に努めています。



外来リハビリテーション課

患者様が楽しい雰囲気の中で、効率の良い訓練を行えることが出来るよう、日々患者様の情報交換及び訓練内容の確認を密に行っています。

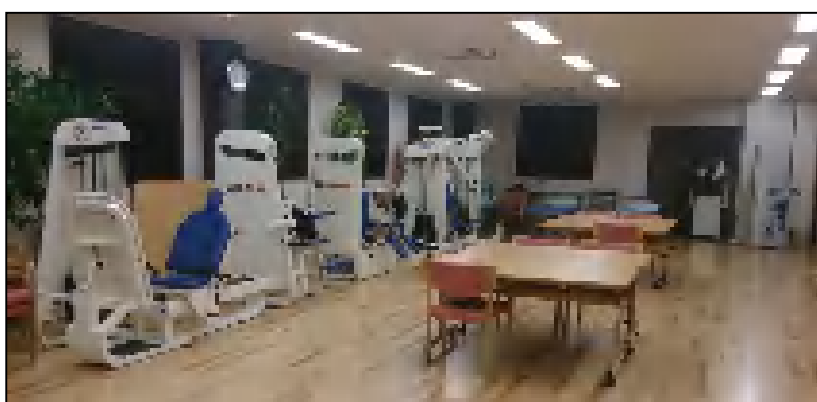
在宅リハビリテーション課

当事業所では、通所リハビリテーション(3時間集中/午前・午後の二部制)と訪問リハビリテーションを提供しています。

通所リハビリテーションでは、一人ひとりの利用者様を理学療法士と作業療法士が専門的な視点で評価し、各利用者様に応じたプログラム(個別訓練・パワーリハビリテーション・自主訓練・集団レクリエーションなど)を立案し実施しています。また、介護スタッフとの連携を密に図り、訓練内容や目的を共有して利用者様を支援しています。利用者様が「ここへ来て良かった。楽しかった。」と感じていただけるような環境作りを日々心掛けています。



外来リハビリテーション室



通所リハビリテーション室

訪問リハビリテーションでは、利用者様とご家族の在宅生活の状況を的確に把握し、皆様の気付かない点や改善すべき点に着目しながら、少しでも自立した生活を送れるよう支援しています。

ボツリヌス療法・経頭蓋磁気刺激治療（TMS）

ボツリヌス療法での筋の施注部位については予めマニュアル化されていますが、当院では主治医とセラピストが患者様の身体の状態を評価し、活動を阻害している筋を特定しながら治療を進めています。

TMS 治療では、上肢機能の随意性が低い患者様に対しても実施し、脳の潜在能力と可能性を追求していきます。また今後は、パーキンソン病やうつ病、嚥下障害など、TMS 治療による効果が期待されている分野に対しても実施していきたいと考えています。

おわりに

地域ではリハビリテーション治療を受けられず、身体状況や日常生活に不安を抱えている方がたくさんいることを実感しています。患者様利用者様がよりよい生活を送れるようスタッフ全員で努力していきたいと思えます。今後とも、甲斐リハビリテーションクリニックを宜しくお願い致します。

理事会便り

一般社団法人 山梨県作業療法士会
2014年度 第3回 理事会議事録

日時：平成26年6月24日(火)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、工藤、長坂、松田、有泉、関谷、磯野、佐尾、渡辺、濱田、米山、宮尾：15名

1. 副会長(廣田・古屋)

1)日本作業療法士協会社員総会へ参加。日本作業療法士協会にて、協会会長・事務局長の雇用が承認される。

2)都道府県連絡協議会総会へ参加。今後、山梨県は南関東グループ(東京、神奈川、埼玉、千葉、山梨)に属し活動していく。

2. 事務局(三瀬)

1)山梨県地域リハビリテーション従事者研修会実行委員会委員として、森樟司(甲州リハビリテーション病院)を推薦する。

<管理部>

1)会員数504名(平成26年6月22日現在)新規入会者57名

<福利厚生>

1)新入者転入者歓迎会を実施。参加者195名(うち新入者・転入者39名)

3. 広報局(工藤)

<企画編集部>

1)平成26年6月20日(金)に企画編集部・HP管理部合同部会を開催。

4. 学術局(佐尾)

<生涯教育部(有泉)>

1)現職者共通研修 第1回研修会

テーマ：「作業療法生涯教育概論」

日程：平成26年6月12日(木)

会場：地域交流施設 大木記念ホール

講師：山本伸一(山梨リハビリテーション病院)

参加者：約40名

5. 常設委員会

<生活行為向上マネジメント(米山)>

1)平成26年5月24日(土)・25日(日)、日本作業療法士協会生活行為向上マネジメント会議に、佐藤真一監事が参加。

一般社団法人 山梨県作業療法士会
2014年度 第4回 理事会議事録

日時：平成26年7月24日(木)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、廣田、古屋、三瀬、松田、有泉、関谷、磯野、佐尾、渡辺、米山、宮尾：12名

1. 事務局(三瀬)

1)中北地域リハビリテーション広域支援センター第1回中北地域リハビリテーション連絡会に三瀬理事出席。

<管理部>

1)会員数511名(平成26年7月24日現在)

2. 学術局

<生涯教育部(有泉)>

1)第2回現職者共通研修

テーマ：事例報告と事例研究

日時：平成26年7月4日(金)

会場：大木記念ホール

講師：黒崎真樹(健康科学大学)

参加者：37名

3. 常設委員会

<訪問リハビリテーション委員会(米山)>

1)平成26年7月14日(月)第2回山梨県訪問リハビリテーション協議会出席

一般社団法人 山梨県作業療法士会
2014年度 第5回 理事会議事録

日時：平成26年8月25日(月)

会場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：廣田、古屋、三瀬、長坂、松田、有泉、関谷、佐尾、濱田、米山、宮尾：11名

1. 会長(山本)

1)平成26年8月7日(木)3土会合同意見交換会出席。

2. 副会長(廣田・古屋)

1)第12回協会・都道府県土会合同役職者研修会の報告。平成26年7月26日(土)・27日(日)に参加。

2)介護予防市町村支援事業実施に関する研修会の報告。平成26年8月9日(土)に参加。

3. 事務局(三瀬)

1)平成26年7月30日(水)に、健康長寿やまなし推進本部会議リハビリテーション部会議に、会長代理として三瀬理事が出席。

<管理部>

1) 会員数 513 名(平成 26 年 8 月 24 日現在)

4. 学術局

<企画研修部(佐尾)>

1) 第 1 回企画研修部研修会

テーマ: 認知症のある人の「その人らしさ」を支える

日 時: 平成 26 年 8 月 22 日(金)

会 場: 健康科学大学 B 棟 1 階 B101 教室

講 師: 守口恭子(健康科学大学 健康科学部作業療法学科)

参加者: 53 名

<生涯教育部(有泉)>

1) 現職者共通研修 第 3 回研修会

テーマ: 作業療法における協業・後輩育成

日 時: 平成 26 年 7 月 27 日(日)

会 場: 健康科学大学 C 棟

講 師: 加藤智也(健康科学大学)

参加者: 30 名

2) 第 3 回研修会

テーマ: 実践の為の作業療法研究

日 時: 平成 26 年 7 月 27 日(日)

会 場: 健康科学大学 C 棟

講 師: 佐藤真一(健康科学大学)

参加者: 30 名

3) 第 4 回研修会

テーマ: 職業倫理

日 時: 平成 26 年 8 月 8 日(金)

会 場: 大木記念ホール

講 師: 関谷宏美(甲州リハビリテーション病院)

参加者: 38 名

5. 常設委員会

<特別支援教育委員会(関谷)>

1) 平成 26 年度第 1 回特別支援教育委員会主催研修会

テーマ: 脳性まひ児者の理解と支援

日 時: 平成 26 年 8 月 3 日(日)

会 場: 地域交流施設 大木記念ホール

講 師: 岸本光夫(元茨城県立医療大学、現フリーランス)

参加者: 50 名

2) 特別支援教育課題研修会

テーマ: 不器用さの理解と対応

日 時: 平成 26 年 8 月 11 日(月)

講 師: 原國優子(健康科学大学)

一般社団法人 山梨県作業療法士会

2014 年度 第 6 回 理事会議事録

日 時: 平成 26 年 9 月 25 日(木)

会 場: 甲府城南病院 作業療法室

出席者: 山本、古屋、三瀬、長坂、磯野、松田、有泉、関谷、佐尾、濱田、米山、渡辺、宮尾: 13 名

1. 事務局(三瀬)

<管理部>

1) 会員数 529 名(平成 26 年 9 月 25 日現在)

2. 学術局

<企画研修部(佐尾)>

1) 第 1 回企画研修部研修会

テーマ: 認知症のある人の「その人らしさ」を支える

日 時: 平成 26 年 8 月 29 日(金)

会 場: 山梨県立青少年センター

多目的ホール別館 2 階

講 師: 守口恭子(健康科学大学 健康科学部作業療法学科)

参加者: 97 名

2) 第 2 回企画研修部研修会

テーマ: 車の運転と作業療法~高次脳機能障害と認知機能障害の運転適性評価

日 時: 平成 26 年 9 月 5 日(金)

会 場: 地域交流施設 大木記念ホール

講 師: 藤田佳男(目白大学 保健医療学部 作業療法科)

参加者: 100 名

<生涯教育部(有泉)>

1) 現職者共通研修 第 5 回研修会

テーマ: 事例検討・事例報告

日 時: 平成 26 年 9 月 21 日(日)

会 場: 山梨県立青少年センター

参加者: 70 名(事例報告参加者: 21 名)

3. 常設委員会

<福祉用具委員会(関谷)>

テーマ: 福祉用具委員会~基礎編~

日 時: 平成 26 年 8 月 31 日(日)

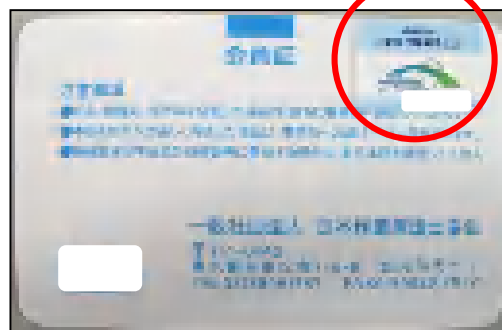
会 場: 地域交流施設 大木記念ホール

参加者: 17 名

一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。

なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。



一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功勞のあったもの又は学識経験者

いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。

連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部
〒400-0831 山梨県甲府市上町753-1
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内
FAX：055-241-8660（代）
TEL：055-241-5811（代）

副長代表挨拶・福祉・心理の専門資格を目指そう



健康科学大学 10th
HEALTH SCIENCE UNIVERSITY 10th ANNIVERSARY

福祉・心理系学部 作業療法学科 臨床心理学科

<http://www.kekkoudai.ac.jp>

TEL 055-550-5290



編集後記

ドタバタ、ジタバタ、アタフタ、反省、反省(ふ)
いよいよ寒くなり始めました。今年は鍋に凝ってみようかと(つ)
こたつを出しましたが、愛猫は僕のベッドで丸くなってます(あ)
今年は富士山いけませんでした。来年は職場のみんなで行きたいなあ(な)
今年の秋は登山をして紅葉を楽しみたいと思います(つ)
今年も残りわずかなのでたくさん鍋をしたいと思います(か)
今年の夏は今までにしたことのないことを幾つかした気がします(い)

発行人：山本 伸一

編集人：工藤 亮・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・浅川 良太・今泉 隼・精進 智規・金田 勇一

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

しらゆり訪問看護ステーション 〒400-0114 山梨県甲斐市万才 287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株)島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1534 TEL 055-233-8829